

母子家庭18% 食事回数減

コロナで困窮浮き彫り

新型コロナウイルスの感染拡大で、母子家庭の18・2%が食事回数を減らし、14・8%が一回の食事量を減らしている」とが六日、NPO法人「しんぐるまざあず・ふおーらむ」の調査で分かった。勤務先の休廻業や労働時間の短縮で、元から少ない収入がさらに減少。学校給食の停止による食費増などで、支出を切り詰めても困窮状態にあることが浮き彫りとなつた。

ひとり親支援に取り組む同法人の赤石千衣子理事長は「あまりの生活だったりに新型コロナが追い打ちをかけた。格差を固定化しないためにも、日頃からの政府支援が必要だ」と訴える。

七月にインターネットを行なった。三ヶ月で体重が激減（二人の子どもを持つ三十代）。「子どもが学校に行けなくなつた。タブレッ

通じてアンケートを実施、シングルマザー約千八百人から回答を得た。食事の回数や量が減っただけではなく、20・1%の世帯はお菓子やおやつを食事の代わりにすることが増えたと回答。49・9%が炭水化物だけの食事が増えたとした。また10%前後の世帯が家賃や水道代、電気代などを滞納し、36・8%の世帯では、一斉休校に伴う子どものはオンライン授業に必要なタブレット端末やパソコンを持っていなかつた。

自由記述では「子どもたちには一食で我慢してもらいたい、私は一食が当たり前。三ヶ月で体重が激減」（二人の子どもを持つ三十代）と過酷な体験が並ぶ。（三人の子どもを持つ三十代）と過酷な体験があつた。70・8%が新型コロナで雇用や収入に影響があつたとも回答。借金は二月と比べ七月は11・2%の世帯で増え、七月の平均額は約三十六万円（約四万円増）だつた。

新型コロナによる母子家庭の食生活の変化

1回の食事量が減った	14.8%
1日の食事回数が減った	13.2%
お菓子やおやつを食事の代わりにすることが増えた	20.1%
炭水化物だけの食事が増えた	49.9%
インスタント食品が増えた	54.0%

*NPO法人「しんぐるまざあず・ふおーらむ」のアンケートから。約1800人が回答。(複数回答)